もっと射れさせて？

みるく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
もっと射れさせて？

【Ｎコード】
Ｎ８８１２Ｑ

【作者名】
みるく

【あらすじ】
修二が、妹、女友達、保健室の先生と関係を持つという物語。
じゃんじゃん妄想しちゃってくださいｗｗｗ
私も書いてるとき、妄想しまくっちゃいました～ｗ

（前書き）

ヤバい系なので、注意！

「お兄ちゃん～」
「なんだよ。春奈」
「きょうぁ～お母さんがいないんだよ？」
「だからなんだよ？」
「ＳＥＸ・・・しよっ」
「・・・」
「ダメぇ？」
修二は春奈をベットに押し倒した。
「何ぃ？お兄ちゃんしたいんだね。やっぱり～」
「そうだよ。男は性欲の塊なんだよ。　春奈　オレのためにオナれ。」
「うんっ」
そういって春奈は服をすべて脱ぎ、自分の秘書に手を当てた。
「あっ！うぅ　うぅあんっ」
「そうだ。もっともっと激しくするんだ！」
「あぁぁぁぁぁんっ！」
修二は、急いでズボンを脱いだ。
「ほら。射れてほしいだろ？」
「うんっ　はやく射れて！」
修二は激しく腰を振った。
「ありがと。お兄ちゃん。」
そういって自分の部屋へ戻っていった。
「今日は寝るかぁ～」

次の日
「はぁ～」
高校へと修二は行った。

「修二君～」
「綾　おはよう。」
「おはよう！」
「修二君　今日、空いてる？」
「うん。部活ないんだよ今日は。」
「じゃあさ！家行ってもいいかな？・・・・」
「いいけど。なんで？」
「うーん・・・相談？かな。」
「そうか。分かった。待ってるから。」
「うん。ありがとう」
そういって、自分のクラスへと戻った

体育の時間
「今日はサッカーかぁ～」
「うん。そうだな～。」

「試合開始！」

ピピーーーーっ「試合終了！」
「痛っ～」
「大丈夫か？修二？」

「ヤバいかも。」
「保健室行って来いよ。」
「ああ。そうする」

「失礼します」
「あら。どうしたの？山中くん」
「サッカーで、ちょっと・・・」
「そう。座って座って！」
「はい。」
お茶を渡された
「え？」
「・・・頑張ってたでしょ？　ご褒美よ」
小悪魔のように先生は笑った
「どうも。」

「ねぇ？」
「はい？」
「あなた、欲求不満じゃない？」
「いや、そんなこと
「正直に言っていいのよ？」
「・・・はい。そうです」
「ふふ・・・射れてもらってもいいのよ？」
「そんなっ　とんでもない！」
ガララ
先生はカーテンを閉めた。
「私、ホンキよ？」
胸のボタンをじらすように外していった。
「っ・・・」
とうとう、ブラジャーのホックを外そうとしたとき・・・
「みたい？」

「・・・」
「あ～っ　もうカワイイっ！　いいわ、はっきりいってごらんなさい」
「ん・・・みたいです・・」
「いいわよ」
「あぁ・・・」
「さ、あなたも脱・い・で」
「・・・」
黙りながらズボンを下ろした。
「まぁ　立派」
「先生っ　お願いします・・・」
「ふふふ」
「よいしょっと・・・いくわよっ」
「あっ・・・」
一気に快感が押し寄せてきた。
「んっ」
「どう・・・？気持ちい？」
「はい。とっても。」
腰を素早く動かし、快感のひと時を終えた。
「ありがとうございました。」
「また、しようね？」
「はい。　先生さえよければ・・・」
「ええ。分かったわ。」

「はー。気持ち良かった～」
やっぱいいよなぁ～Hは。

放課後

「あ。そういえば　今日は綾が来るのかー。」

ピーンポーン

「はーい」

「修二君　ちゃんと来たよ～」

「あがってあがって」

「うん。お邪魔しまーす」

「あ。だれもいないから。」

「ええ。分かったわ。」

「で？相談ってなに？」

「うんとね・・・私、１６歳なのにね、まだ・・・うぅんとね、「経験」がないの！」

「・・・そうか。」

「うん・・」

「それで？」

「私と・・・してほしいのっ・・・」

「お前っ！！何言ってんのか分かってるか？」

「わかってるよ・・・好きな人に、ヴァージン奪ってほしいじゃん・・・？」

「・・・わかったよ。してやるよ」

「ホントにっ？　無理言ってごめんねっ」

「いいよ・・・オレも、したかったし・・・？」

「うん・・・。」

「じゃあ、始めるよ？」

「うん」

「痛っ・・・うぅっ・・痛いっあぁぁぁん」

「大丈夫か？」
「ごめんね・・・。気持ちよくなかったよねっ。」
「いいよ。そんな。　どうだった？」
「うーんとね、最初は痛かったけど、最後らへんは、気持ちよかったかも・・・」
「そっか。じゃあ
「あのっ！」
「ん？」
「も、もう一回やらせてください・・・」
「うん。分かった。」

ズプっ
「あんっ　あぁっさっきより気持ちいいいいっ」
「俺もなんか、締まってて、気持ちいよっ」
「うっ」
ドピュドピューっ
「気持ち良かった。ありがと。」
「うん。こちらこそ。」
「あのっ　良ければ　明日も・・・してくれないかなっ？」
「うん。いいよ。」
「ありがとう　」

今日はたくさんしっちゃったな～
綾は、意外に胸が大きいし、先生は、奥まで入るし。
ラッキーだったな～
「お兄ちゃん！」
「春奈　どうした？」

「今日もしようっ？」
「いいぞっ！たくさんしてやるよっ！！」
「やった～」

（後書き）

男性のかた、女性の方問わず、妄想してくれたら嬉しいです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8812q/

もっと射れさせて？

2011年4月23日14時24分発行